

第4学年2組 道徳科学習指導案

【日時】令和2年11月26日(木)【場所】4年2組教室【指導者】水田 雄治

本授業の主張点

本授業では、児童が道徳的価値や人間理解の確認をした後、教材を読んでテーマを見いだす流れを、授業の導入から展開の中に位置付けています。終末では、道徳的実践意欲や態度を育むために「こんな人になりたい」を考える場を設けます。これらを通し、実践に向かおうとする児童の姿をお見せします。

- 1 主題名 誰にでも親切にするには 【内容項目 B-(6) 親切, 思いやり】
- 2 教材名 『心の信号機』(出典:新・みんなの道徳 4年 学研)
- 3 主題設定の理由

○ ねらいとする価値について

親切とは人から言われてするものではなく、自発的に行うものである。そこには相手のことを思うこと、立場に立つことが必要である。しかし、実際には、よかれと思って取った行動がおせっかいだと思われたり、本当に声をかけていいのか躊躇したりすることもある。本授業で扱う内容項目の親切, 思いやりは第3学年及び第4学年では、「相手のことを思いやり, 進んで親切にすること。」とある。これは、第1学年及び第2学年の内容項目「身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。」を受けたものである。このことから、身近な人だけでなく、困っている人には進んで親切にすることが大切になってくる。そこで、相手の置かれている状況、困っていることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考えることや、親切にした方がいいことは分かっているにもかかわらず実行できない自分の弱さを乗り越えることが、進んで親切を行うことへの理解を深めていくことにつながっていくと考える。

○ 本時に関わる児童の実態について

本学級の児童は休み時間には男女分け隔て無く元気よく遊ぶ姿が多く見られる。また、困っている友だちを見つけると優しく声をかけたり、手伝いをしたりと行動に移すことができている。しかし、本教材に関わるアンケートにおいて「どんな人には親切にできませんか」の質問にほぼ全員が「知らない人」「違う学年の子」「仲が良くない子」と回答していた。理由として、「声をかけるのが恥ずかしい」「知っている人が助けるはず」「文句を言われそう」等、関わらないようにしようとする様子が見られた。このことから、身近な人(友だちや家族)には親切にしようとするが、知らない人や苦手な子には親切にできないという人間理解の部分に強く影響されていることがわかる。相手の置かれている状況や困っていることを自分事として捉えることで、進んで親切にしようとすることの大切さについて考え、よりよい生き方を志向する児童の姿を期待している。

○ 教材の活用について

主人公のぼくは、頼まれてお使いに行く途中、信号機近くでじっと立っている目の不自由な男の人に気が付いた。信号が見えないので、渡れなくて困っているのではないかと思ったぼくは、その男の人に声をかけようかどうか、なかなか勇気がわかかなかった。しかし、思い切って声をかけ、手をとって横断歩道を渡ったという話である。「知らない人には関わりたくない」等の人間理解の部分や、「どうすればいろいろな人に親切にすることができるのか」について考えることに適した教材である。

○ 指導の重点

まず、導入においては、以前行ったアンケートを想起し、現段階における親切についての価値観を確認する場を設ける。また、親切にすることに関して、「知らない人」や「仲良くない人」にはできないなど、人間理解も併せて行うことで道徳的課題を考える際の布石とする。

展開の前半部分では、教材を読んで道徳的問題場面を考えるように促す。その理由を聞いたり、教師が価値の整理をしたりして、児童へ問題場面を明確に示すことで道徳的課題を考えるよう促す。その後、主人公が葛藤する場面や勇気を出して声をかける場面について話し合うことで、親切にすることについて多面的・多角的に考えさせる。

展開の後半部分では、どうすればいろいろな人に親切にできるかについて話し合い、今日の道徳的課題(テーマ)についてのまとめを行う。その際、「〇〇をする」といった行為の決意表明に留まらず、なぜそうするのかという判断基準(理由)も併せて意識化させ、発表につなげる。

終末では本授業やテーマのまとめから、「こんな人になりたい」を書くように促す。その後、ペアや全体で共有して友達の意見を聞くことで、道徳的実践に結び付けることができるように意欲付けを行う。

4 本時の指導

(1) ねらい

主人公が取った行動や誰に対しても行う親切について話し合い、これからの生き方について考えることを通して、実践に向かおうとする道徳的実践意欲や態度を育む。

(2) 展開

過程	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 期待する児童の姿
導入	1 親切について想起し、今の自分について考える。(10分)	○ 親切とは何ですか。 ・ 人に優しくすること ・ 相手の立場にたつこと	1-(1) 親切について、現段階の価値観を考えるように促すことで、ねらいに関わる方向付けを図る。また、以前学習した親切について考えたことを振り返ることで、テーマを考える際の布石とする。
	2 教材「心の信号機」を読んで話し合う。(20分) (1) 教材文を読んで道徳的問題場面を見つける。 (2) 道徳的課題を考える。	○ 親切にすることの難しさは何ですか。 ・ 断られるかもしれない ・ 知らない人にはできない ○ 教材文を読んで話し合いたい所はどこですか。 ・ なぜ、すぐに声がかけれなかったのか。 ・ なぜ、最後は声をかけることができたのか。	1-(2) どんな時に親切にできないことがあるか考え、親切に係る人間理解を促す。 2-(1) 教材文から、みんなと一番話合いたい所を決めさせた後、発表させる。 2-(2) 出てきた道徳的問題場面から教師が整理をし、明確にすることで、道徳的課題を考える場を設定する。
展開	どうすればいろいろな人に親切にすることができるのか考えよう。		
	(3) ぼくがとった行動について話し合う①。	○ なぜ僕は目が不自由な男の人を見て眺めたり、歩く足がゆっくりになったりしたのでしょうか。 ・ 勇気が必要だから ・ 声をかけていいか迷う	2-(3) 声をかけようと思ってもできない主人公について考えるよう促す。その際に、導入において自分たちにも難しさがあることを想起させることで主人公への共感を図りながら意見を出させる。
	(4) ぼくがとった行動について話し合う②。	○ なぜ勇気がわいてこなかったのに親切にしようと決心したのか。 ・ 事故にあいそうだから ・ 放っておけない	2-(4) 何が主人公を親切にしようと駆り立てたのかを問うことで、主人公が取った行動についての判断基準(理由)を考えさせる。
終末	3 自分事としての親切について考える。(10分)	○ 最近誰に親切にしましたか。また、誰に親切にされましたか。 ・ 友達にした ○ どうすればいろいろな人に親切にすることができるのでしょうか。 ・ 相手の立場に立つ ・ 誰にでもするという思いをもつ	3-(1) 今まで親切をする・される相手は誰だったかを自分の経験から想起し、テーマのまとめにつなげる。 3-(2) 本時のテーマについて考え、まとめをノートに記述させる。また、行為についてのみ記述するだけでなく、なぜそうしようと思うのかという判断基準(理由)も併せて書くように促す。
	4 ねらいとする価値への意欲づけをする。(5分)	○ 「こんな人になりたい」を考えましょう。 ・ 誰にでも親切ができる人になりたい ・ 困っている人がいたらすぐに声をかけられる人	4 こんな人になりたいについて意図的指名をして発表を促すことで、ねらいとする価値への意欲づけを図る。 本時の学習を通して、これからの生き方について考えることができる。

